

データをより有効にする必要がある。日射量は平均雲量と簡単に一次的関係にあるのではなく、雲形、雲高、雲厚によって同一の雲量でも日射量に対する効果が異なる。したがって雲形、雲高等を考慮してその factor を乗じた日中の雲量が必要となる。水平面日射量に関しては Robitszch 日射計の器械的欠陥により、その時間的、地域的な比較を行う時に、データの信頼度が低いことは致命的である。理論的研究チェックに必要な実験データが得られるような器械にすることが必要である。われわれは上述のような理由によって、得られた結果を充分信用して云々することが危険であると考えている。しかしこの種の研究は従来日本では全く行われていないので、今後もし上記のような注意をもって続けて行くことは必要であろう。

4. 結 論

1) 雲量7以下の天候が太陽熱利用に適しているとして、日本の代表的8地点の日射利用度をだした。その値は各地点で異なるが大体 200~300 ly/day である。

2) 日射利用度は大体において緯度が高くなるに従い

減少している。

3) 日射利用度は裏日本では冬期著しく減少するが、表日本ではそれほど著しくない。

4) 雲量と日射量相対値 (Q/Q_A') との関係は、地点により比較的一つの曲線に乗り易い傾向のもの、逆に分散が非常に大きくて一つの曲線に乗せにくいものがある。これは明らかにその地点の気象条件の差を表わしているものと思われる。

5) 雲量と日射量相対値 (Q/Q_A') との関係につきさらに明瞭な函数関係を得るために、より有効な雲量の表現方法と今後の日射観測自体の改良が必要と思われる。

参 考 文 献

- J. N. Black: The Distribution of Solar Radiation over the Earth's Surface, Ark. f. Met. Geophys. u. Bioclim. series B, Bd. 7, (1956), S. 165—189.
von Wolfgang Collmann: Idealwerte der Globalstrahlung Annal d. Meteor. 6 Jg. (1953/54) S. 117—122.

支 部 だ よ り

昭和32年度第2回東北支部 気象学会開催さる

標記の気象学会が昭和32年12月21日午後福島県飯坂温泉婦人会館で開催された。なお当日午前には仙台管区気象台主催の東北地方気象研究会が開催されたので、結局東北地区存在の会員並に気象官署職員による32年度における主要なる気象関係の研究結果が当日に集約発表された形になった。このため学会会員は内海、山本(義)、伊藤、高橋理事、大西、難波幹事の外会員約20名、会員外の出席者を合すると55名となり、又18時より前記研究会と共催の懇親会が同会館で行われ盛大であった。講演題目(研究会も含む)はつぎの通り。

午前の部(東北地方気象研究会)

1. 本邦附近の副低気圧について
秋田 酒井 一
2. M. S. F型擾乱による雨量分布について
福島 三瓶 次郎
3. 青森県の雷害について 青森 百足 虎治
4. 電線塩害の予報について 福島 三瓶 次郎
5. 寒河江川流域における観測位置の決定について
山形 土屋 正一
6. 東北地方に起った浅発地震の特性について
仙台 渡辺 偉夫
7. 昭和31年9月30日の宮城福島県境の地震について
富古 田巻 健

特別講演

- (1) 津軽海峡における冬の北西季節風

- (2) 豊水群(豊水年次)はいつまで続くか

気研 荒川 秀俊

午後の部(東北支部気象学会)

1. 八戸火力発電所附近の地盤卓越振動周期の観測
仙台 吉田 作松
2. 冬季本邦附近における低気圧の急激な発達について
秋田 小林 一雄
3. 500mb Barotropic 予報の成績と C. A. V trajectory による修正
仙台 草野 和夫
4. シックネス変化と1000mb 気圧傾向の予報における Kinematical Analysis の利用
仙台 草野 和夫
5. 積雪の有無による気温変化に関連して
(イ) 積雪末期における気温偏差分布の異常
(ロ) 積雪期間の気温観測に認められた経年変化の異常
新庄 佐藤 義正
6. 風のエネルギーについての一調査
仙台 渡辺 正男
7. 着氷の成長速度について
東北大学 三浦 晃
8. 会津川口線の雪崩について 若松 大野 栄寿
9. 阿武隈川の洪水予報(主としてユニットグラフについて)
福島 鈴木 哲夫
10. 対流不安定に伴う雨量について
仙台 野口 和則
11. 擾乱の型と岩手県における雨量分布の推移
鳴子 関根 勇八
12. 北上川流域の H. C. F による客観的予報
仙台 山下 洋
13. 不連続面における Disturbance について
東北大学 大西 外史